

歴史とは何か

歴史という学問は、分析する主体である人間自身が、その対象となる国家や社会のなかで呼吸をしつつ生きていかなければならない。そのような面倒な環境で進められる。

歴史的なものの見方というのは、いきおい、国家や社会の中に生きる自分という人間が、たとえば、なぜ310万もの人が犠牲となる戦争を日本は行ってしまったのか、なぜ第一次世界大戦の悲惨さに学ぶことなく戦争は繰り返されたのだろうか、という「問い」に深く心を衝き動かされたときに初めて生ずるものなのだ。つまり、悩める人間が苦しんで発する「問い」の切実さによって導かれてくるものなのである。

過去の歴史研究の第一線で論じられたり、考えられたりしてきた「問い」にはいったいどのようなものがあり、それが明確にされている教科書があるのか、歴史上に生きた人々が発した、根源的な「問い」が生まれた現場を、まず見ていこう。

ある研究者は、なぜある「問い」を解かねばならないと考えて研究を始めたのか、そのような「問い」は、なぜ特に値する問題なのか、多くの研究者が自らの「問い」と格闘した結果の集大成が教科書ではないだろうか。そのような実感の持てる教科書があってもよいのではないか。

その第一線の研究が生み出された原初の場として、E・H・カーという英国の歴史家が1930年代に抱いた切実な「問い」を見ていこう。

カーは、文明史観など大きな論点を理想主義的な立場から論じる学者ではなく、細かい史料を挙げながら、未来と将来にに対して、暗い暗い見通しを述べるのです。

著書の中でもっとも有名なものは「歴史とは何か」です。

「歴史とは現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話」

また、「危機の20年 1919～1939」

第一次世界大戦後、1919年のパリ講和会議、ベルサイユ体制＝国際連盟の試みが、なぜ20年後に破綻しなければならなかったのかの切実な「問い」に対し、自らの「答え」を解き明かすために書かれた。

おろかなために、あるいは邪悪なために、人々は正しい原理を適用し得なかったというのではなく、原理そのものが間違っていたか、適応できないものであったのだ。

つまり、敵国であるドイツが悪いのではなく、そもそも国際連盟が間違っていたのだ、と。敗戦国ドイツに対する連盟の処し方が間違っていたのだ、と。アメリカやフランスやイギリスなどの大国が主導してつくりあげた、第一次世界大戦後の秩序そのものが間違っていたとE・H・カーは正直に述べてしまった（vices of integrity）

また、「歴史は科学だ」という主張と「歴史は進歩する」という主張。「経済や社会の平等といったようなものを実現する社会は、やはり進歩しているとみなさなければならない」

論点、歴史が特殊なものを扱い、科学が一般的なものを扱うという分け方は不当である。歴史家が本当に興味を持つのは特殊なものではなく、特殊なもの内部にある一般的なものだ。歴史家は過去の一つの出来事を見るとき、常に無意識に一般化を試みている。個別と一般、特集と普遍をつなげてものをみている。

歴史は教訓を与える。もしくは歴史上の登場人物の個性や、ある特殊な事件は、その次に起こる事件になにかしら影響をあたえていると。一つの事件の経過が、次のある個別の事件に影響を与える。当事者が、ある過去の記憶に縛られて行動する。

歴史の誤用（アーネスト・メイ 「歴史の教訓」 the lesson of past）

政治的に重要な判断をしなければならぬとき、人は過去の出来事について、誤った評価や教訓を導き出すことがいかに多いか、ということ。

米国の政府機関のなかで、ベスト・アンド・ブライテスト、つまり最も頭脳明晰な優秀な補佐官たちが政策を立案したはずだったのに、彼等は泥沼にはまるような決断をしてしまったのか。

- ① 外交政策の形成者（makers of foreign policy）は、歴史が教えたり予告したりしていると自ら信じているものの影響をよく受けること
- ② 政策形成者（policy makers）は通常、歴史を誤用するということ。

政策を形成しようとする者は、自らがこれから判断しなければならない問題を考えるとき、強いプレッシャーを感じつつ、歴史のなかから類推例を必死にもとめようとする。過去の人々はどのようにしていたのだろうか、あのとき政府はどのようにしたのだろうか、と。しかし、その過去の歴史について、真実がすべて明らかになっているわけではなく、また人々が思い浮かべる過去の歴史の範囲

は極めて限定されてしまっている。人々は、自分がまず思いついた事例に囚われてしまうものなのだ。最も優れた政策形成者でも、歴史の類推例を広範囲にわたって頭のなかで探しだそうとはしないものなのだ。

つまり、意志決定を行う人々が陥ってきた、歴史の誤用について、このようなメカニズムで発生すると、診断を下した。

③ 政策形成者は、そのつもりになれば、歴史を選択して用いることができる。